

椎茸が好きになれそう 二部小学校で椎茸植菌体験

椎茸の菌を原木に植える体験事業が、2月22日、二部小学校で行なわれました。

この事業は、去年地元の椎茸生産者が、二部小学校で給食を児童たちと食べたのがきっかけで始まりました。二部小学校では、この事業を「ふるさと大地大発見」と題して、椎茸ができるまでを学習し、ふるさとを見直し、自由研究につなげることを目指しています。

この日は、全校児童41人が参加し、椎茸生産者などから指導を受けながら、コナラの木1本におよそ50個のジャンボ椎茸菌を埋め込みました。植菌が終わると、児童たちは、植菌した木に名札を打ち込み、体育館裏の山に運び込みました。

順調にいけば、11月頃には、食べごろの椎茸が収穫できるとのこと。体験を通して、児童たちは、「椎茸は、あまり好きじゃなかったけど、好きになれそうです」「椎茸が生えたら食べてみようと思います」と大きな椎茸が生えるのが楽しみになったようです。



植菌したコナラの木を運ぶ児童たち



一つひとつ、椎茸の菌を植えつける児童たち

ふるさと大賞を受賞 2009年度 日本海新聞ふるさと大賞 伯耆町の部

岸本中学校野球部と平成の名水百選「伯耆町地蔵滝の泉」を守る会が、日本海新聞ふるさと大賞を受賞し、表彰式が3月2日に本庁舎で開かれました。

ふるさと大賞とは、新日本海新聞社が、スポーツで優れた成績を収めたり、地域に貢献した個人や団体を表彰するものです。

伯耆町の部では、スポーツ功労賞に岸本中学校野球部が、地域貢献賞に平成の名水百選「伯耆町地蔵滝の泉」を守る会が選ばれ、それぞれの代表が森安町長から表彰状を受け取りました。

岸本中学校野球部は、去年10月に行われた第10回鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭軟式野球競技中学生の部で見事初優勝をかざり、勇気と希望、また感動を与えたとして受賞しました。

また、地蔵滝の泉を守る会は、平成20年に地蔵滝が平成の名水百選に選定されたのを機に、地元集落と企業・行政と連携し、地蔵滝周辺の環境保全や地域活性化に尽力したとして受賞しました。

今回、表彰式に出席した新日本海新聞社西部本社の寺谷寛代表は、「この受賞を機に、さらに頑張りたい」と、受賞者を激励していました。



日本海新聞ふるさと大賞の受賞者たち

音楽といっしょに春がきた 第5回伯耆町民音楽祭

町内の様々な音楽グループが合奏や合唱を披露する町民音楽祭が、3月7日、鬼の館で賑やかに開催されました。

毎年この時期に開催されるこの音楽祭は、今年で5回を数えます。今年も町内で活躍する大正琴や合唱、バンド演奏など様々な音楽グループが日頃の練習成果を発表しました。

今年は、溝口地区のちびっ子とそのお母さんによる踊りや歌も披露されました。子どもたちは、お母さんと一緒にディズニーのミッキーやミニーに変装して登場。大きな舞台に最初は少しだけ緊張ぎみでしたが、ディズニーやまんが日本昔ばなしの曲に合わせて最後まで元気よく歌ったり躍ったりしていました。

また、町内各地区で活躍する合唱団は、それぞれの特色を活かしながら、春を感じさせる歌などで美しいハーモニーを醸し出していました。最後に登場したバンドの演奏では、「キューティーハニー」や「また会える日まで」を伸びやかに歌い上げ、会場からは大きな拍手が鳴り響いていました。



美しいハーモニーで観客を魅了する合唱団

地域の防災活動に活躍 消防ポンプ車の配備

伯耆町消防団第2分団に新しい消防ポンプ車が配備されることとなり、2月24日、引渡し式が開かれました。

これは、第2分団がこれまで使用していた消防ポンプ車が老朽化したため、町が電源立地地域対策交付金により新たに購入したものです。

この日の引渡し式には第2分団員が参加し、森田副町長から南葉正明団長へ目録が手渡され、さらに南葉団長から山本芳史第2分団長へ引き渡されました。

新しい消防ポンプ車は、CD-1型と呼ばれる四輪駆動車で、乗車定員は10人です。式の後、団員はさっそく車両に乗り込み、日野川土手に移動。そこで操作方法について指導を受け、放水テストを行いました。

南葉団長は、「新しい装備が付き能力が上がった分、団員の能力を高めるよう、一生懸命努力したいと思います」と、決意を新たにしていました。



配備された新しい消防ポンプ車

こころの学校支援地域本部

「町民みんなで支える学校 みんなで育てる伯耆町の子ども」ボランティアベストを作成しました

地域のみなさんの力が重要です。伯耆町では、「全ての子どもたちの夢をかなえる」を教育のテーマとし、その土台となる「確かな学力と人間力の育成」を学校教育の基本方針に据えています。人間力とは、自立した一人の人間として、力強く生きていくための総合的な能力のことを言います。道徳心を持ち、主体的に判断し、行動できる力を持つことが大切とされています。これを実現するためには、地域のみなさんの底力をお借りし、「地域連携による協働の教育」を推し進めていくことが重要です。

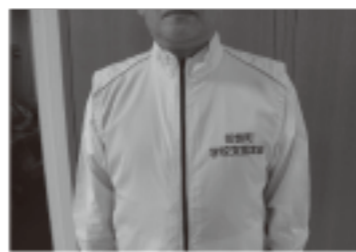
「意味ある大人」とのふれあいを求めていきます

自分に自信が持てず、将来や人間関係に不安を感じている子どもたちが多い現状では、「意味ある大人」とのかわりが必要だとも言われています。

意味ある大人

- 私のことを待っていてくれる人
- 私の話が聴いてくれる人
- 私のことを信じてくれる人
- 私のことを頼りにしてくれる人

子どもたちは、このような「意味ある大人」とのふれあいを待ち望んでいます。



前



後

子どもたちの登下校時に、ベストを着て散歩をしてみませんか。「おかえり、今日の学校は楽しかった?」「また、明日もここで待ってるよ。」こんな会話が、あちこちで聞ける伯耆町でありたいと思います。

学校支援本部では、できる時にできることで子どもたちを育てる、「意味ある大人」としてのボランティアを募集しています。

【問い合わせ先】

教育委員会事務局 総務学事室
☎62-0927